

VOL. 40

ひとり 一学習 一スポーツ 一趣味 一奉仕

生涯学習

広域的な生涯学習の推進を

近年、市町村の枠を越えた広域的な事業が求められる傾向になりつつあります。例えば、県レベルの文化センターや美術館など建物の広域化はある程度進められて来ています。しかし、ソフト面での事業はまだまだ広域化というレベルにはなっていないようです。その点、民間では、企業の戦略のひとつとして、充実しつつある面もうかがえます。そこで、この広域圏においてのソフト事業の展開はどのようになればよいか考えてみたいと思います。

昨今、住民の方々は職・住が離れて、人々の地域間移動が活発な時代となっています。生活圏域が広がり、他のまちの図書館を利用したり、他のまちの文化センターで音楽を聞いたりする機会などが日常生活して来ています。

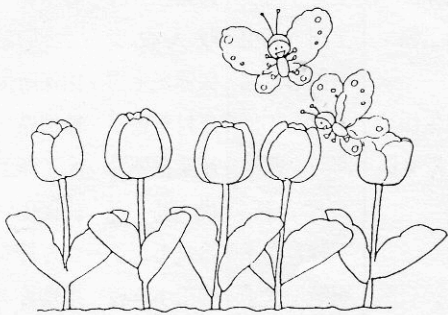
次に、隣接した自治体が互いに同じような事業をしていいたのでは、経済的効率からいっても非常にムダな面があり、一緒にやった方がいい場合があります。あるいは、それぞれのまちの人的な体制が乏しいため、よりよい人材やリーダーを広く求めるという意味でもあります。以上のような理由で、「広域化」の発想が求められているのではないのでしょうか。

これまでよく実施されているのは文化・観光の分野です。また、身近なものとしては、消防事業やゴミ収集があります。ほかには民間団体やサークルも広域化する傾向にあります。これも生活圏の拡大と関係があります。

さらに生涯学習の視点では図書館の広域利用が増えているようです。

しかし、これにはなかなか難しい点もいくつかあります。まずは地域エゴ。つまりそれぞれの地域が、自分のところにより利益があがるようにと考えてしまいがちだということです。あるいは、広域的な事業ネットワークについての体制が出来ていないということもあるでしょう。

広域の事業でいうと、例えば一流の合唱団を一つのまちで招くよりは、近接の市町村が共同で招いた方が経費負担も何分の一かですむという場合もあります。あるいは、過疎地での地域活性化事業、特産品や観光スポットの開発などでも広域的な取り組みがなじむのではないのでしょうか。



生涯学習推進のつどい 3月5日 から

3月5日(日)、改善センターで「生涯学習推進のつどい」を開催しました。すばらしい作品の展示や中身の濃い発表が行われました。

ささやかな取り組みが、自分の内面を磨くだけでなく、仲間づくりをひろげて地域づくり・まちづくりへとつながることが出来ると確信を持ちました。

